

月刊しばうら

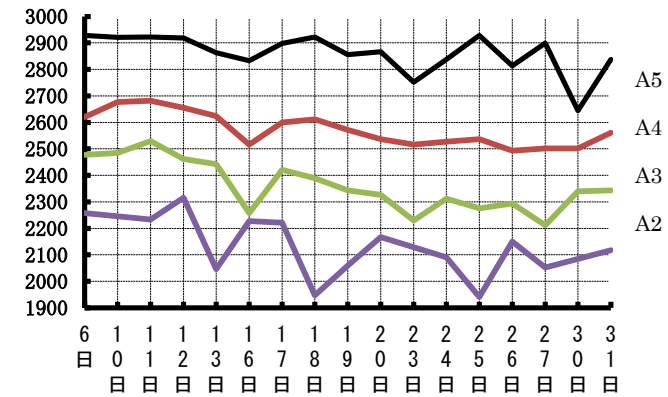
2017年 2月号

大動物事業部

<1月の相場動向>

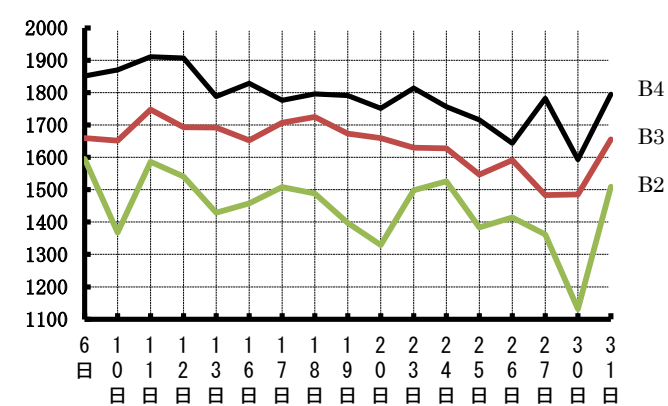
和牛去勢 A5 が前月比 93 円安、A4 が同 113 円安、A3 が同 58 円安、A2 が同 26 円高となった。高値相場の影響を受けて年末の手当てを控えたことで、1 月に入り在庫補充とオーダーにこだわるための手当て買いが集中し全般に反発したが、中旬以降からは末端需要も消費疲れて停滞するなか、和牛、交雑牛とも弱もちあい推移した。ただ枝肉仕上りの良さあしで枝肉取引価格に価格差が生まれ、全体的には軟調となっている。

和牛去勢 日別相場表 (1月)



和牛去勢月平均	前年同月比	前月比
A5 2,884 円	101.8%	96.9%
A4 2,580 円	97.8%	95.8%
A3 2,375 円	95.5%	97.6%
A2 2,144 円	93.0%	101.2%

交雑去勢 日別相場表 (1月)



交雑去勢月平均	前年同月比	前月比
B4 1,793 円	98.9%	92.4%
B3 1,646 円	99.3%	93.6%
B2 1,471 円	98.9%	101.1%

乳牛去勢月平均	前年同月比	前月比
B3 上場なし		
B2 969 円	93.0%	109.0%

<2月の全国出荷頭数予測>

農畜産業振興機構による 2 月の出荷予測頭数は、全体で前年比 2.6%減の 8 万 700 頭と予測している。

品種別にみると和牛は 6.5%減の 3 万 2,100 頭、交雑種は 8.5%増の 1 万 8,900 頭、乳用種は 5.1%減の 2 万 8,300 頭。交雑種は黒毛交配率の上昇により増加が見込まれる一方、和牛と乳用種は今後も減少が継続する。

東京食肉市場の 2 月のと畜頭数は 6,930 頭を予定している。

<2月の牛枝肉相場見通し>

末端消費の好材料は少なく、消費低迷の時期ではあるが、出荷頭数は依然として少ないことなどから牛枝肉取引価格は前月からの相場水準を維持し、大きく値下がりすることはないと思われる。品質のしっかりとした枝肉には一定の値が付くが、悪いものには値が付きづらく価格差の大きい状態が続くとみられる。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,800~2,900	B4	1,750~1,850
A4	2,550~2,650	B3	1,600~1,700
A3	2,350~2,450	B2	1,400~1,500
A2	2,150~2,250		
乳牛去勢			
B3	1,100~1,150		
B2	950~1,050		

<2月の牛肉輸入量予測>

2016 年の年間輸入量は、1.9%増の 50.3 万 t となり 2014、15 年と 2 年連続で前年割れとなっていたが 3 年ぶりに増加し 50 万 t の大台に乗せている。財務省の貿易統計によると 12 月の輸入牛肉通関量実績は、前年比 22.0%増の 4 万 5,054 t となった。このうち、チルドは 2 万 3,075t (22.9%増) となり、フローズンは 2 万 1,978t (21.1%増) となった。チルドでは、豪州産は減少傾向が続くなかで 1 万 t 台を維持、米国産の伸長などによって 2 ヶ月連続で 2 万 t 台に、フローズンも 9 月以降、2 万 t を超える輸入が継続している。

農畜産業振興機構の予測によると 2 月の牛肉輸入数量は、前年比 15.2%増の 3 万 7,900t と予測している。チルドが 18%増の 1 万 7,100t、フローズンは 12%増の 2 万 800 t で、チルドは現地相場安や好調な需要を背景に、特に米国産の増加が見込まれている。フローズンにおいては、前月同様に低い在庫水準を背景に、豪州産・米国産ともに前年同月を大きく上回ると予測している。

輸入牛肉通関量		12月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	10,525	11,304	93.1%
	米国	11,515	6,618	174.0%
	その他	1,035	851	121.6%
	合計	23,075	18,773	122.9%
フローズン	豪州	14,330	9,895	144.8%
	米国	5,841	6,617	88.3%
	その他	1,807	1,641	110.1%
合計	21,978	18,153	121.1%	

単位：t

出典：食肉速報

小動物事業部

食肉流通統計によると、12月の全国と畜頭数は 148 万 1,929 頭 (前年同月比 99.9%) となり前年より減少した。また、12月分の豚肉通関実績は、総量で 7 万 3,646t (前年同月比 108.7%) と前年より上回った。うちチルドが 3 万 1,579t (同 107.4%) で内訳は、米国が 1 万 7,776t (同 100.7%)、カナダは 1 万 2,845t (同 121.0%)、メキシコが 955t (同 115.7%) となった。フローズンは 4 万 2,067t (同 109.6%) と前年を上回り、デンマークが 9,930t (同 109.2%)、メキシコが 5,430t (同 101.7%) 米国が 4,158t (同 139.6%)、カナダが 4,422t (同 131.1%) となった。

<1月の豚取引の推移>

上旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
5日	81,400	-	-	-
6日	78,000	565	543	1,249
10日	77,300	509	467	1,292
11日	75,000	499	455	1,306
12日	73,700	474	442	1,221
13日	73,900	498	460	1,093

上旬の全国と畜頭数は 1 日あたり 7 万 6,500 頭と前年を上回る頭数であった。当市場においても平均 1,230 頭と前年を上回る上場頭数であった。

年末最後まで高値を維持したバラ・肩ロースは年明けを向かえると落ち着きをみせ値を下げた。対してヒレの需要が年明け早々に高まってきた。また、学校給食の再開の前にスノ物の荷動きが徐々に良化してきた。

当市場の上物価格は 6 日の初セリこそ高値となったが 2 日目を以降は実勢相場を推移する形となった。

中旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
16日	65,600	490	461	936
17日	68,300	502	479	889
18日	65,700	495	463	813
19日	69,600	483	456	1,020
20日	69,300	485	456	1,026
23日	64,800	466	445	850

中旬の全国と畜頭数は 1 日あたり 6 万 7,200 頭と前年を下回った。当市場は 1 日平均 920 頭と前年を上回った。

パーツ荷動きの中心は引き続きバラ・肩ロースであったが、全体的な需要の弱まりにより値は下げたままであった。スノ物も同様でモモの荷動きが弱まった。輸入物についても通関遅れの影響がみられなかった。

当市場の上物平均価格は 486 円。中物平均 460 円であった。また、重量が大きめの枝肉がまだ目立っていた。

下旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
24日	67,800	486	462	891
25日	63,800	464	448	865
26日	67,000	470	456	926
27日	68,100	471	464	907
30日	65,200	481	470	953
31日	66,400	513	501	929

下旬の全国と畜頭数は、平均 6 万 5,000 頭と前年を上回った。当市場の上場頭数も平均 910 頭と前年を上回った。月初めは堅調であった肩ロース・ヒレが値を下げてきた。さらにスノ物の荷動きも弱まり、モモは凍結回しになるケースもあった。バラのみが堅調を維持する状況で値も上が

った。当市場の上物平均価格は 480 円となり、上・中格差が少ない相場展開であった。

<2月の豚枝肉相場見通し>

農水省による 2 月の全国と畜頭数は、137 万 7,000 頭 (前年同月比 101.0%) と予測しており、一日当たりの頭数は約 6 万 8,900 頭である。当市場の 2 月の集荷予定頭数は 1 万 7,000 頭となっており、一日当たりでは約 850 頭の見込みである。

また、農畜産業振興機構による 2 月分の豚肉輸入見込数量は、総量で 6 万 7,500t (前年同月比 106.2%) の予測となっている。内訳はチルドが 2 万 7,800t (同 103.0%)、フローズンは 3 万 9,700t (同 108.5%) の予測である。

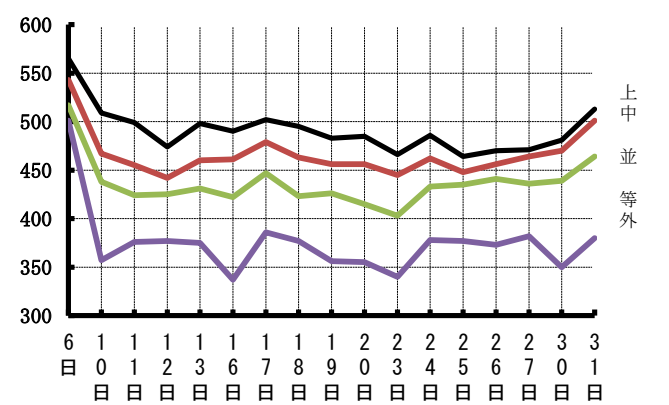
また 11 月における豚肉推定在庫量は、国産品が 1 万 6,167t (前年同月比 101.9%)、輸入品は 14 万 8,069t (同 103.2%) となり合計 16 万 4,236t (同 103.1%) となった。推定出回り量は 15 万 5,741t (前年比 105.5%) で前年を上回った。うち国産品は 8 万 1,365t (同 104.9%) 輸入品は 7 万 4,376t (同 106.1%) であった。国内生産量は 8 万 28t (同 103.3%) と前年を上回った。

国産牛の高値相場に不服感がでてきており、消費動向をみても年末商戦が好調であった分その反動が出てきていると思われる。春までは消費需要の高まりは期待が薄そうだ。

2 月の全国頭数は前年並みかやや増えると予測できる。対して輸入物は通関遅れの状況がまだまだ続いており、これがいつの時点で解消に向かうのかが今後の大きなポイントとなりそうだ。

値動きによって明るい材料を見つけるのが難しい状況であるが、当市場の上物平均価格は 495 円。中物平均価格は 475 円と予測する。

豚 日別相場表 (1月)



出荷者の皆様へ

PEDをはじめとする様々な病気を予防するため、防疫体制を強化しております。生体車の消毒など、衛生担保のため、引き続き皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

東京都港区港南2-7-19

東京食肉市場株式会社

TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127

URL http://www.tmmc.co.jp/